

ゆめだより

ゆめの里和田訪問看護ステーション

第23号



ゆめの里和田訪問看護 ステーションの 目標



ご利用者・ご家族が、
安心してその人らし
い生活が送れるよう
な看護を提供します



地域に根差し、地域で
頼られるステーション
をめざします



職員一人一人がスキルア
ップを行い、意欲をもっ
て働き続けることができ
る職場をめざします

平成 14 年に開所したゆめの里和田訪問看護ステーションは、今年で 23 年目を迎えました。現在は、看護職員 6 名と事務職員 1 名体制で活動しています。

「訪問看護」は、地域の居宅において継続して療養を受ける状態にある方に対し、看護師などがその方の居宅に訪問して、主治医の指示に基づいて行う療養上のケア又は必要な診療の補助などのサービスを提供しています。その方の病気や障がいに応じた看護を通じて、健康状態の悪化防止、終末期ケア、回復に向けた支援、介護相談など 24 時間 365 日いつでも緊急訪問に対応しています。病院から退院するにあたり、「家に帰るのは不安・・・」、「最期を自宅で過ごしたいと本人は望んでいるが、急に具合が悪くなったらどうしよう」など利用者や家族の不安を少しでも減らすことができ、ご希望に応えられる訪問看護ステーションを目指してスタッフが丸となって日々奮闘しています。

これからの地域包括ケアの時代に向けて、在宅療養を支え信頼される訪問看護ステーションとして、地域の皆さまに頼られるよう活動していきます。

令和 7 年 6 月発行
発行 社会福祉法人松本ハイランド
〒390-1242
松本市大字和田 2240-33
電話 0263-40-3377
FAX 0263-40-3370
<https://www.yumenosato.info>

特集：社会福祉法人ジェイエー長野会との事業統合の検討経過

事業統合検討の背景

今後の法人経営を見通したときに、介護人材の不足分をICT化等の導入により補うための設備投資、経年劣化による施設整備に加えて、人材の確保・定着やサービスの質の向上に向けた教育研修体制整備を通じて、職員自身の成長が実感できる職場にブラッシュアップを図るための資金投入など、多種多様かつ多額の資金需要が見込まれてきます。

これら諸課題の解消策として、共にJA松本ハイランドにより設立された社会福祉法人ジェイエー長野会との一体的な運営によるスケールメリットにより、松本地域の利用者・家族の介護ニーズに沿った事業展開が可能となり、利用者や職員が満足できる法人経営が可能となることが期待できます。

この事業統合に向けては国でも様々な支援措置を講じていることから、将来の松本地域におけるJAグループ介護・福祉ブランドの発揮を目指し、事業統合の検討を進めることとしました。

事業統合検討の経過

R6.1～11	【松本地域介護事業検討会】両法人、JA松本ハイランド等により将来の介護事業の諸課題・方向性の検討
R6.11～	【事業統合推進委員会・幹事会】事業統合に向けた計画、実務的な事項の策定・調整
R7.2～	【事業統合事業計画策定会議】事業統合後の事業計画の策定

事業統合の基本事項・目的

事業統合の目的	魅力ある社会福祉法人として2040年に長野県内（松本地域）において地域共生社会の役割を担う。
事業統合の方式	社会福祉法人ジェイエー長野会を存続法人とし、社会福祉法人松本ハイランドの事業を包括継承する。
事業統合の時期	令和8年4月1日を目途。
事業統合後の組織運営	①評議員会、理事会の構成を見直し、国の方針に基づき県内最大規模に見合った執行体制を整える。 ②統括本部の組織・体制を見直し、ガバナンス強化を図る。 ③松本地域事業本部の体制・名称等を見直しを図る。
事業統合後の事業	①現社会福祉法人松本ハイランドが行っている事業は原則継続する。 ②現松本地域事業本部においては「長期計画」に基づき計画し実行する。 ③今後定める「事業統合計画書」において、2040年を見据えた事業計画を策定し、松本地域で勝ち残れる組織形成と事業の実行を図る。 ④JAグループの社会福祉法人として、JA松本ハイランドとの連携をさらに深め、JAグループ介護・福祉（地域づくり・連携）ブランドを強める。
現行事業の黒字化	令和7年度より「社会福祉法人松本ハイランド」「社会福祉法人ジェイエー長野会・松本地域事業本部」のすべてのサービス拠点において黒字化を目指す。
事業統合後の職員の処遇	社会福祉法人松本ハイランド職員の身分は、社会福祉法人ジェイエー長野会に包括継承を基本とし、全職員が社会福祉法人ジェイエー長野会に転籍する。

特別養護老人ホームゆめの里和田

各町会ではクラブ活動を開催しています。今回は野菜クラブの活動報告です。3丁目では野菜クラブを立ち上げ、入居者とトマト、なす、キュウリを定植。「美味しそうなのができるかな?」「毎日水やり頑張るぞ!!」皆さん意気込みは充分です。この日は天気も良くてゆっくり外気浴ができ、とても気持ち良かったと話されていました。この外気浴は、リラックス効果があり、気持ちを落ち着かせる効果が期待できるということで、毎日心身の調子を整え、みなでお世話を頑張っています。無事にたくさん収穫できますように!



ゆめの里和田デイサービスセンター

コーラスボランティア『フラワーズ』の皆さんが5月に来てくださり、初夏から夏にかけてのコーラスを中心に披露していただきました。

一緒に歌われる方や手拍子をされる方、歌声に聴き惚れてしまう方等さまざまでしたが、「また来てもらって最高だった! こうやって思い切り声を出せる機会があると嬉しい。ストレスが消えた! また来てほしい」など利用者の皆さんはとて楽しんでおられました。普段とは違った顔が見られ、スタッフにとってもとても有意義な時間となりました。



ゆめの里和田福祉相談センター



和田福祉相談センターでは、この度4台のタブレットを導入しました。

訪問と訪問のすき間時間に支援経過を音声入力により入力時間を抑えたり、訪問先で予定変更をしたりすることができ、うっかりミスを防ぐこともできます。

まだまだ十分に活用できている状況にはありませんが、少しでも業務の効率化に繋がるよう全員で利用を進めています。

また、毎月、各事業所に印刷して紙で配付していた提供票を、パソコンと連動したFAX送信に切り替えてペーパー削減にも繋げ始めています。

今後も業務の効率化と経費節減に努め、改善により確保できた時間を相談に振り向けられるようにしていきたいと思えます。

ゆめの里和田訪問看護ステーション

令和6年10～11月に、信州大学医学部保健学科の在宅看護実習生を受け入れ、利用者宅への訪問看護に同行していただきました。

在宅でのそれぞれの違った環境で療養されている様子や、介護されている家族の気持ちや、訪問看護師の役割など知ることができたかと思われまます。

私達にも数十年前は看護師の卵だったこともあり、実習生の頑張っている姿を見て初心に戻ることができました。

実習生を温かく迎えて下さった利用者と家族の皆さまに感謝いたします。



特別養護老人ホームゆめの里朝日

地域交流の一環で、鉢盛中学校・合唱部の皆さんに来ていただき「合唱コンサート」を開催していただきました。入居者の皆さんも一緒に体を動かしながら歌を歌ったり、楽しい時間を提供してもらいました。

この他にも鉢盛中学校の生徒の皆さんとは職場体験等での交流の機会もあり、入居者の皆さんは中学生の若いエネルギーを存分に吸収しながら楽しんでいる様子でした。



ゆめの里朝日宅老所

利用者と一緒に制作した『桜の壁画』が、雑誌『月刊デイ』の『自慢のレク・クラフト大集合』に入賞し、表紙に掲載されました。この作品は、障子紙を染めて桜を作り台紙に貼りました。春の季節をイメージして、花びら1枚1枚を丁寧に切り貼りして、満開の桜の木が出来上がりました。

これからも季節や物語の壁画を、利用者の皆さんと一緒に楽しく制作していきます。

月間デイ(表紙)

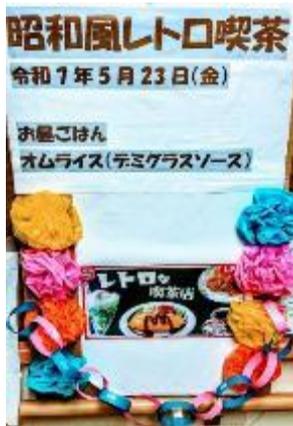
『桜の壁画』



養護老人ホーム松本市立松風園

「昭和風レトロ喫茶」のイベントを行いました。ランチではデミグラスソースのオムライス、午後の喫茶ではクリームソーダ・コーヒーフロート・コーラフロート・オレンジフロートの中から、職員が注文に応じてその場で作って提供しました。

職員の手作りデザート：プリンアラモードも用意し、ともに大好評でした。



ゆめの里入山辺

令和6年度の「ゆめの里入山辺」生産性向上の取り組みをご紹介します。

最初に職員から業務中に感じている事や気づいたことを集め、集まった気づきを「なぜなぜ分析」しました。次に、分析した結果を「因果関係図」に整理しました。(A) その因果関係図をもとに、どこに対してどんな「打ち手」があるかを考えていきます。今回は【倉庫内が整理されておらず、物がどこにあるのか把握できていないため、必要なものを探すのに時間がかかってしまう】という問題に対し、5S活動を打ち手として倉庫の整理整頓を行うことにしました。整理整頓の前後でKPI(重要業績評価指標)を測るため、「使いやすさ」と「見た目」の5段階評価でのアンケートを実施しました。

(B) 整理整頓後、レク用品や施設管理物品が分かりやすくなり、ご利用者様と関われる時間を捻出することに成功しました。今後も生産性向上へ向けての取り組みを行っていき、質の高いケアの提供を目指していきます。

(A) 因果関係図



(B) 整理整頓後の倉庫



特別養護老人ホームゆめの里今井

ゆめの里今井では、体を動かしたい入居者が集まって毎週水曜日に看護師による集団リハビリを行っています。毎週、趣向を凝らしたメニューを取り入れて、全身の機能を維持できるように歌やダンスなど、楽しく体操に取り組んでいます。風船バレーやボール蹴りでは、思わずあの頃を思い出し、手足が出てびっくり！と、職員を驚かす一面も。

運動のラストは皆さんお気に入りの『水戸黄門体操』です。これからも健康でありたいと願う入居者の皆さんを支えていきたいと思えます。



ゆめの里今井福祉相談センター

南西部包括支援センターの依頼を受けて、4月にデリシア移動販売員（とくし丸）の方9名を対象にした認知症サポーター養成講座を開催しました。

とくし丸の販売員として認知症の方と接する機会が多く、販売員の皆さまが様々な点で工夫されていることを知ることができ参考になりました。

色々な意見交換もでき、大変有意義な時間となりました。

今後は、松本市今井・神林地区や山形村にも範囲を拡大し、販売を行っていただけたとのことでした。

買い物に困っている利用者の皆さんにも情報提供していきたいと思えます。

今後も行政や地域との連携を図りながら地域貢献に努めていきたいと思えます。



河西部西地域包括支援センター

地域に出向き住民の皆さんと行っている活動の中から『いきいき百歳体操』をご紹介します。

この体操は、地域包括ケアシステムのフレイル予防の一環として、松本市健康づくり課がメインとなり、地域づくりセンター、福祉ひろば、生活支援コーディネーター等と地域包括支援センターが協力して各地域で開催しています。

『百歳体操をやってみよう』『チャレンジしたい！』という方は、地域包括支援センターまでご相談ください。



令和7年度 事業計画

介護保険事業をめぐる環境変化に伴い、次年度以降は社会福祉法人ジェイエー長野会との一体的な事業運営を計画しています。これを受けて本来であれば中期計画策定年度でしたが、前中期計画を踏襲した単年度計画を策定し取り組むこととし、前年度と同様の、「利用者」、「地域」、「人財」、「経営」の4つの基本方針から、基本目標と実施具体策を各施設事業所で策定しました。

利用者

L I F E（科学的介護情報システム）の活用を中心としたエビデンスに基づく介護の実践により、利用者満足度の向上に取り組みます。

地 域

地域の介護・支援を必要とする方々を支えるために、地域・行政・医療機関・JAなどと連携した取り組みを進めます。

人 財

魅力ある働きがいのある職場を、業務の洗い出しによる生産性向上や教育研修体制の充実等により構築し、職員の確保・定着に取り組みます。

経 営

利用者サービスの充実や職員の処遇改善に向けて十分に対応できるように、適正な収支の確保による安定した経営を目指します。

令和7年度 資金収支予算

（単位：千円）

	R7 予算額①	R6 決算額②	対比 (①/②%)
事業活動収入計	1,464,410	1,450,091	101.0%
介護保険事業収入	1,450,195	1,434,071	101.1%
医療事業収入	11,402	10,891	104.7%
その他の収入	2,813	5,129	54.8%
事業活動支出計	1,369,774	1,374,017	99.7%
人件費支出	934,513	950,512	98.3%
事業費支出	217,941	211,531	103.0%
事務費支出	215,810	208,832	103.3%
その他の支出	1,510	3,142	48.1%
事業活動資金収支差額	94,636	76,074	124.4%
施設整備等収支差額	△ 86,704	△ 34,007	255.0%
施設整備等収入計	40,000	25,624	156.1%
施設整備等支出計	126,704	59,631	212.5%
当期資金収支差額合計	6,932	42,066	16.5%
前期末支払資金残高	627,273	652,061	96.2%
当期末支払資金残高	634,205	694,127	91.4%

紙面構成の都合により、表記を次の通り統一しています。

「ご利用者様」→「利用者」、「ご入居者様」→「入居者」、「ご家族様」→「家族」